

平成29年度第5回きのくにコミュニティスクールの推進に係る研修会(東牟婁会場)

1 日時：会場 平成29年10月6日(金) 13:00～16:30 那智勝浦町体育文化会館

2 参加者 市町村教育委員会きのくにコミュニティスクール担当者
教育関係者 県立学校関係教職員 共育コーディネーター 等
合計 57名

3 内容

◆基調講演「地域創生と教育力向上を一体とした、地域と学校の新たな関係づくり」

文部科学省 CSマイスター

びわこ学院大学教育福祉学部子ども学科

准教授 高木 和久 氏

○問題提起と課題意識の共有

分業型社会から協働型社会へ

→孤立と希薄化を生む構造からの脱却

→学校・地域・行政等による縦の分業から連携・協働した活動の中で子供を育てる横の分業に



○学校と地域の変える

・「双方向」と「対等」を大切に

学校・・・子供の教育課題を解決する

地域・・・10年～20年後の地域を担う子供を育てる

・「何のためにするのか」「どんな子供を育てるのか」

それぞれの立場で子供の課題を共有し、子供を育てる目標を共有する

→「熟議」と「協働」

→「子供」は「お客さん」ではない「自治の一員」として向き合う

○それぞれが変化の自覚を感じながら持続可能な体制づくりを！

◆パネルディスカッション

「地域の学校としてのコミュニティ・スクールの充実に向けて」

コーディネーター：

きのくに共育コミュニティ推進協議部会 会長 清水 雅昭 氏

パネリスト： 文部科学省CSマイスター

びわこ学院大学教育福祉学部子ども学科 准教授 高木 和久 氏

三重県立紀南高等学校 校長 中山 隆之 氏

和歌山県立串本古座高等学校 校長 愛須 貴志 氏

和歌山市立高松小学校 校長 西川 厚子 氏

○三重県立紀南高等学校の取組

・地域に根ざし、地域に開かれ、地域に必要なとされる学校づくりのため、平成19年度にコミュニティ・スクールを導入

【具体的な取組】

生徒が地域の方々と話し合う「対話集会」を実施、開かれた学校として、学校図書館の開放や地域住民が授業への聴講生として参加、「地域産業とみかん」（収穫販売を学ぶ新科目）を設定 等



○和歌山県立串本古座高等学校の取組

- ・地域活性化の一翼を担う串本町・古座川町と共に歩む学校へ
→両町との連携協力に関する協定を締結し、地域協議会を発足
→平成29年度からコミュニティ・スクールを導入

【具体的な取組】

高校生の地域貢献として、地元の食材を生かしたマグロ料理の新メニューの考案、なんたん蜜姫スイーツ復活プロジェクトを実施 等

○和歌山市立高松小学校の取組

- ・学校が「動く！」感動と実感を大人も子供も味わう
- ・地域と共に学ぶ6年間のカリキュラムをマネジメント

【具体的な取組】

地域・学校協働で「ゆめ」を実現 秋葉山プールを借り切り満喫プラン、高松防災チャレンジャーとして、地域の避難マップを製作 等

○主な協議内容

- ・コミュニティ・スクールの導入により、生徒と地域の様々な人との関わりの中で、認めてもらえる場面が増え、生徒の自己有用感が高まった。
- ・生徒の地元愛が強くなり、「大人」に対する意識が変化した。
- ・行政・地域・小学校中学校大学と連携した取組を行っていききたい。
- ・校長がリーダーシップを発揮し、ゆっくりと前に進みながら学校運営協議会長と同じ視点で共に取り組むことが持続性につながる。
- ・学校と地域をつなぎ、整理してくれる役割として、コーディネーターの存在は重要である。

◆地域ごとに分かれてのグループディスカッション

「各地域に応じたきのくにコミュニティスクールの進め方」

グループワークでの意見

- ・地域とのつながりが強く、協力的であることが地域の強みといえる。
- ・学級懇談会、学力に対しての保護者の意識のばらつきがあるため、働きかけをしていきたい。
- ・行事に参加してくれる人が同じ人と重なってしまいがちなため、学校運営協議会の人選が難しい。肩書きで選ばずに慎重に決めていきたい。
- ・幼稚園、小学校、中学校をつなげたコミュニティ・スクールをしているところもあるので、連携した取組ができるよう進めていきたい。

4 参加者の声（アンケートより）

（市町村担当者）

- ・「仕組み」を作っていく中で、「何のために」「どんな地域にしたい」「こんな子供を育てたい」というビジョンを持つ必要があることを再認識した。多忙な学校現場で、多忙感を上回る充実感を得ることができるためのマネジメントが不可欠であると思う。あらゆる立場で熟議の場が必要だと考える。

（小中学校教職員）

- ・学校運営協議会の役割について、3校の先生方の実践を聞いて参考にしたいことがあった。学校と地域をつなぐ役を誰がするのか、どうつなげていくのかをしっかりと考えていかなければとも思った。